

鹿児島・熊本観光旅行

右城 猛

まえがき

(財)熊本県建設技術センターより9月1日の森林土木研修の講師を依頼された。月曜日であったので、その前の土曜日と日曜日に鹿児島を観光してから熊本に入ることにした。

8月30日(土)8時発のANA554便で高知空港から伊丹空港に飛び、伊丹空港から鹿児島空港に入る。空港でレンタカーを借りて知覧に入り、武家屋敷群庭園と知覧特攻平和会館を見学。そして指宿の長崎鼻を見物して指宿いわさきホテル泊。

31日(日)は鹿児島の仙巖園、石橋記念公園、桜島、水族館を観光。鹿児島中央駅 18時14分発の九州新幹線つばめ58号で新八代駅まで行き、そこで19時3分発のリレーつばめ58号に乗り換えて熊本に入る。

9月2日は、10年の歳月と総工費54億円を掛けて今年の3月に完成した熊本城本丸御殿を見学。



鹿児島空港から知覧へ

前もって旅行会社から予約しておいたニッポンレンタカーで三菱の小型自動車を借りて、溝辺鹿児島空港ICから九州自動車道に入る。途中の桜島サービスエリアにミネラルウォーターと昼食用の食料を買うために立ち寄る。

終点の鹿児島インターからは指宿スカイラインを走って知覧に行く。

指宿スカイラインは山岳部を走る有料道路。評判通り見晴らしは良くない。



九州自動車道の桜島サービスエリア



指宿スカイラインの展望台から眺めた桜島と鹿児島市街

知覧武家屋敷群庭園

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている武家屋敷群で、西郷恵一郎氏、平山克己氏、平山亮一氏、佐多美舟氏、佐多民子氏、佐多直忠氏、森重堅氏邸の7軒の「名勝庭園」を見学する。森氏の庭園が築山泉水式庭園である以外は枯山水式庭園である。

家は民家として利用されているので、見学できる場所は限られている。



佐多民子氏邸庭園



森重氏庭園。唯一の築山泉水式庭園。



西郷恵一郎氏邸の門



道路の両側が武家屋敷



知覧型二ツ家。二つの屋根の間に小棟をおいて繋いだ知覧独特の建築様式。



西郷恵一郎氏邸庭園



石垣からの抜け落ち

知覧特攻平和会館

太平洋戦争の末期、旧陸軍太刀洗飛行学校知覧分校から知覧特攻基地に名称が変更され、ここから爆装した飛行機に乗った 493 名の青年達が飛び立ち、肉弾となって敵艦に体当たりした。

知覧特攻平和会館は、旧陸軍特別攻撃隊隊員の遺品や関係資料を展示し、当時の記録を後世に伝える目的で、知覧特攻基地の跡地に 1985 年に建設された。

館内には、操縦席より後ろの部分がなく、腐蝕してボロボロになった海軍零式戦闘機(ゼロ戦)を展示されている。海底 500m に沈んでいたものを昭和 55 年に引き揚げたもの。館内は残念ながら撮影禁止になっている。



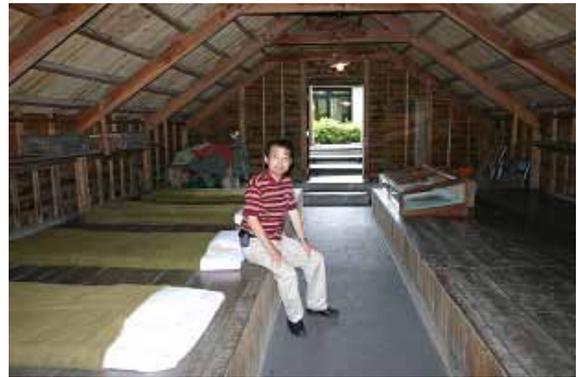
知覧特攻平和会館に入る道路の桜並木。桜が満開の季節になるとさぞかし素晴らしいことだろう。



特攻隊員の遺書などが展示されている知覧特攻平和会館



特攻隊員の宿舎として利用された三角兵舎を復元した建物。



三角兵舎の内部



映画のロケのために製作された一式戦闘機「隼」の実物大模型。

石原慎太郎が制作総指揮・脚本を手がけ、2007 年 5 月に公開された映画『俺は、君のためにこそ死ににいく』は、知覧で飛行訓練を受けていた坂東少尉(窪塚洋介)、陸軍飛行兵から母親のように慕われていた鳥濱トメ(岸恵子)とその娘礼子(多部未華子)などの視点から特攻隊員の青年達を描いた作品で、ここがロケ地としても使われた。



瀬平橋から見た開聞岳。松が生えた岩場の上には、与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑が建立されている。



お茶の新芽を霜から守るための防霜(ぼうそう)ファン。写真奥の山は指宿の開聞岳。



指宿市の地図

知覧は日本茶の名産地。知覧特攻平和館から県道 27 号を南に走ると、茶畑が一面に広がっていて、無数の扇風機が立っている。お茶の新芽を霜から守るための防霜(ぼうそう)ファンである。気温が設定された温度を下回ると自動的に回りだし、地上の冷たい空気を振り払い霜が着かないようにする。

知覧特攻平和館を出ると直ぐ南に開聞岳(かいもんだけ)が見えてくる。薩摩富士と呼ばれているだけあって、富士山に似て美しい。

瀬平自然公園

県道 26 号から県道 262 号を經由して国道 226 号を走っていると、自然景観の素晴らしい場所があった。瀬平(せびら)自然公園である。奇岩、老松の葉かげから開聞岳が綺麗に見える。

長崎鼻パーキングガーデン



長崎鼻は薩摩半島最南端の岬。開聞岳の姿が一番美しく見える場所と言われている。岬の入り口にある動植物園「長崎鼻パーキングガーデン」は、わが国ではじめて各種の熱帯・亜熱帯植物を屋外で植樹して、熱帯ジャングルを再現することに成功したところ。

園内にはハイビスカス、ブーゲンビリア、サ

ボテン、アコウ、マンゴー、ヤシなど約 1,000 種の亜熱帯植物が茂り、フラミンゴ、テナガザル、コンゴインコなど約 30 種の動物が放し飼いにされている。



放し飼いにされているコンゴインコ



ジャングル内の天空の散歩道・樹冠の道



樹冠の道の終点にある展望台



雄大な開聞岳



奥の方の灯台がある所が長崎鼻



サボテンガーデン

指宿いわさきホテル

指宿いわさきホテルは、鹿児島市に本社を置く岩崎産業(株)を母体とした「岩崎グループ」の1つ「いわさきホテルズ」が運営している。

岩崎産業は岩崎與八郎(よはちろう 1902～1993)が創業した会社。尋常高等小学校を卒業後、店員から21歳で木材会社を興し、鉄道建設の枕木を端緒に発展、戦後は運輸業、観光事

業へと手を広げ、80社を超える岩崎グループを率いた伝説的な経営者。

ホテルは、指宿海岸の南端に位置する大山崎の近くにある。砂むし風呂、ジャングルプール、美術館、工芸館、テニスコート、サッカーコート、グランドゴルフコースなど備えたリゾートホテルである。

これらの施設群を維持管理するには莫大な経費がかかる。今の時代に経営していくのは大変であろう。



宿泊した指宿いわさきホテル

ホテルにチェックインしてすぐにホテル内の砂むし風呂に行く。テントに覆われているので外の景色は見えない。

真っ裸の上に浴衣を着て砂の上に仰向けに寝ると、従業員がスコップで砂を掛けてくれる。砂の重みで少し息苦しい。そのうちに全身から汗がジワーッと吹き出す。頭を砂から出しているので、サウナに入っているような息苦しさはないが、だんだん背中が熱くなっていく。時間制限はないが、普通は10分から15分とのこと。15分後に隣接している露天プロに入って砂を落とす。入浴は浴衣を着たままで、男女混浴になっている。



写真撮影OKであったのでカメラを持参。砂掛け担当の従業員が撮影してくれた。



隣接した露天風呂に浴衣を着たまま入って砂を洗い落とす。



砂蒸風呂の後に飲むビールはとても美味しい



朝食の後、指宿いわさきホテルの裏庭を散策

仙巖園(磯庭園)

仙巖園(せんがんえん)は、1658年に島津光久がこの地に別邸を構えたときに造られた日本庭園。桜島を築山に、錦江湾を池にみたてた雄大な借景をもつことから、磯庭園とも呼ばれている。

チケット売り場の門を潜って庭園に入ると、薩摩藩の反射炉跡があり、そこで鑄造された150ポンド鉄製砲を復元したものが展示されていた。

韓国からの団体旅行と一緒にになった。マナーができていないので、写真が思うように撮れなかった。



薩摩藩 150 ポンド鉄製砲の復元



錫門(すずもん)

島津藩の財源を担うほど多量の錫が採掘されていた。その名残が屋根を「錫の瓦」で葺かれた「錫門」



背後は桜島。雲に覆われて勇姿が見えない



日本で初めてガス灯を灯した鶴灯籠



29 代忠義の時代に本邸であった場所の前庭



瓢箪(ひょうたん)の形をした瓢池(ひさごいけ)



NHK 大河ドラマ「篤姫」のロケが行われた水道橋のたもとの茶屋



篤姫が渡った水道橋



石臼



尚古集成館

幕末、時の藩主であった島津斉彬は、製鉄、造船、紡績等の産業をおこし、写真、電信、ガス灯の実験、ガラス、陶器の製造など日本の近代化をリードする工業生産拠点をつくり上げた。それが集成館事業。集成館事業と島津家の歴史を語り継ぐ博物館が「尚古集成館」

熊本県立石橋記念公園

江戸時代末期に肥後の名石工岩永三五郎によって架けられた鹿児島市甲突川の5つのアーチ石橋は、150年間現役の橋として利用されていたが、平成5年の集中豪雨により2橋が流失したことから、残りの3橋を文化遺産として後世に残すため、移設し保存するとともに、5つの石橋の歴史や架橋技術を伝える「石橋記念館」を整備し、石橋記念公園として平成12年にオープンしている。なお、西田橋は石橋記念公園内にあるが、他の高麗橋と玉江橋は隣接の祇園之洲公園に移設されている。

移設保存されている石橋

橋名	架橋年	橋長	幅員
西田橋	1846年	49.5m	6.2m
高麗橋	1847年	54.9m	5.4m
玉江橋	1849年	50.7m	4.0m



西田橋の袂



西田橋の下流側



奥に見える門は西田橋御門



西田橋御門



橋の下は子供達が水遊びを楽しむことができるようになっている



鉄筋コンクリート構造二階建ての立派な石橋記念館

桜島

鹿児島港から鹿児島市営の桜島フェリーで桜島に渡る。所要時間は30分。フェリーは10分から15分おきに運行されている。

桜島は、鹿児島県の錦江湾（鹿児島湾）にある東西約12km、南北約10km、周囲約55km、面積約77km²の半島であり大隅半島と接続している。御岳（おんたけ）と呼ばれる活火山に

よって形成され、頻繁に噴火を繰り返してきた歴史を持つ。現在も小規模であるが噴火することがある。

大正3年の大噴火の際には、噴煙が約8,000mも上昇し、約1カ月にわたり30億トンもの溶岩が流出した。このときの溶岩流によって桜島は大隅半島と陸続きとなり、沖合い500mにあった烏島が呑みこまれ、完全に埋没した。現在は桜島フェリー発着所から約2kmの大正溶岩原内に、桜島山と錦江湾を一望できる展望所として整備され、記念の碑が建てられている。



砂防施設が随所に見られる



桜島は土石流の発生回数が日本一。随所に砂防堰堤や流路工が見られる。



桜島フェリーで桜島に渡る。



噴火の際の避難シェルター



湯之平展望所

海拔373mにある桜の花びらをデザインした屋根の展望所。ここから南岳の山容を見ることができる。眼下には鏡のように穏やかな錦江湾と鹿児島市街地を一望できる。



烏島(からすじま)展望所



大正3年の大噴火による大正溶岩原



いおワールドかごしま水族館

日本の水族館で世界最大の魚ジンベエザメを飼育しているのは、沖縄美ら海水族館、大阪の海遊館、いおワールドかごしま水族館の3つだけである。

いおワールドかごしま水族館が誇る「黒潮大水槽」は、幅25m、奥行き15m、深さ5m。ジンベエザメやマグロ、カツオ、大型のエイなどが悠々と泳いでいる。



いおワールドかごしま水族館の正面入り口



桜島フェリーからの眺めた水族館



ジンベエザメが泳ぐ黒潮大水槽
(いおワールドかごしま水族館のHPより)

九州新幹線「つばめ」

8月31日、駅弁とビールを買って、鹿児島中央駅18時14分発の博多行き九州新幹線「つばめ58号」に乗る。

19時に新八代駅に着くと、同じホームの右側に19時3分発の「リレーつばめ58号」(鹿児島本線)が待機していた。それに乗り換えて熊本駅に着いたのは19時25分。

「つばめ」には木製の座席が採用されている。新幹線史上初めてである。木材には鹿児島産の楠、窓のブラインドには桜材が使用され、格調高いデザインの中に安らぎを感じられる。

九州新幹線は平成3年に着工され、平成16年3月に新八代～鹿児島中央間が部分開業している。博多まで全線が開通するのは平成22年度末。全線開通で恩恵を受けるのは鹿児島県。熊本県などは高い負担金を取られるだけで、あまりメリットを期待できないようである。



九州新幹線「つばめ」



「つばめ」の座席(座席探訪のHPより引用)



「つばめ」の車内(座席探訪のHPより引用)

熊本城

9月2日,朝8時半に宿泊していた三井ガーデンホテルをチェックアウト。熊本交通センターを10時23分発の熊本空港行きバスに乗るためには2時間程度の時間余裕があったので,熊本城本丸御殿を見物することにした。

熊本城は1601年から1607年にかけて加藤清正が築いた城。1877年の西南戦争で焼失し,昨年の5月,築城400年祭に訪れた時にはまだ

工事中であったが,今年の4月に本丸御殿が130年ぶりによみがえり,4月20日より一般公開されている。昨日は妻が一人で下見し,素晴らしいということであった。



熊本城は,櫓方門(はげかたもん)から入ると眺めが最高と言う妻のアドバイスに従って行く。

妻の背後の石垣は二様(によう)の石垣。右側は加藤清正の時代に造られた「穴太積(あのをづみ)」,左側は細川時代に造られた「算木積(さんぎづみ)」。二つの様式の石垣となっている。



平御櫓から馬具櫓まで242mある長堀



本丸御殿側から眺めた天守閣



完成した本丸御殿



釘隠し(釘を隠すため飾り金具)



今回復元された中で最大の部屋である「鶴之間」(60 畳) から奥に向かって「梅之間」「櫻之間」「桐之間」「若松之間」と続く。それぞれの部屋は襖で仕切られ、左手には縁側が配置されている。



昭君之間(しょうくんのま)。本丸御殿の中で最も格式の高い部屋で、対面所(接客の場)として利用されていた。(鹿児島市のHPより)



大広間の左手の縁側

大広間の南側に配置された縁側は「広縁」「落ち縁」「濡れ縁」の3段で構成され、その幅は約6mある。すべて檜板を使用。「濡れ縁」の板厚は9cmある。



昭君之間の天井画。一つ一つ丁寧に写生した60枚の植物画が、漆塗りの折上げ格天井と共に部屋を豪華にしている。



昭君之間の障壁画。中国の前漢時代の話で、匈奴(きょうど)(モンゴル)に送られた悲劇の美女,王昭君(おうしょうくん)の物語が描かれている。白馬に乗っているのが王昭君で,楊貴妃,西施(せいし),貂蝉(ちょうせん)と並ぶ古代中国四大美人の一人とされている。



床の間, 違い棚, 付書院などを持つ書院造り



見事な出来映えの欄間

熊本城本丸御殿は, 10年の歳月と総工費 54億円をかけて復元されたというだけあって, 見事な出来映えである。わが国の職人の技術は, 世界に誇ることができる大きな財産であると改めて感じた。財政の厳しい時代にこれだけの

巨費をよく工面できたものである。このような大規模な事業を継続できる間は良いが, 仕事が無くなれば伝統的技術はあっという間に途絶えてしまう。将来が心配である。

昭君之間など写真撮影の禁止されていた部屋が, 観光客からの要望に応じて8月中頃から撮影できるようになったようである。ただし, フラッシュ撮影は禁止されている。

食 事

旅の大きな楽しみに食事がある。今回の旅行でも満足することができた。

指宿いわさきホテルでは, バイキング, フランス料理, 和食, 中華料理の好みのレストランを選ぶことができた。迷った末に, 和食レストラン「與庵(よあん)」にした。指宿近海でとれたカツオの刺身, 鹿児島県産の黒豚しゃぶしゃぶなど。味付けが抜群で大いに満足した。

二日目の昼は桜島の道の駅「火の島めぐみ館」で黒豚ラーメン。その夜は, 鹿児島中央駅で缶ビールと黒豚カツの駅弁を買って新幹線の中で食べた。黒豚はあっさりしてうまい。

三日目の夜は, 熊本の繁華街に出かけた。アーケード街の呼び込みにつられて, 光園ビル2Fにある馬肉専門店「馬桜」に入り, 「馬肉のしゃぶしゃぶ」と自家製の「辛子蓮根」を食べた。高級店ではないが十分に満足できた。

二泊した三井ガーデンホテルの朝食は, バイキングに阿蘇方面の郷土料理が並べられていた。「高菜飯」を食べ, 「だご汁」(団子汁)を飲み, 「辛子蓮根」をかじると何とも言えない幸せを感じた。



だご汁



辛蓮根